

香里中学校における

英語科公開授業

大黒規代

本校英語科が自主教材の編成にとり組み始めて三年になります。これまでの成果を発表したいと、去る十一月十九日公開授業を開きました。校内での研究は、毎年二回行っていますが、このように学外から多数の先生を迎えての授業は初めてのことです。中学一年の二クラス、中学二年の一クラス、中学三年の二クラスを本校教員五名が担当し、同志社大学、同志社女子大学、梅花短大から十名の先生、大阪を中心に京都、奈良、兵庫の公、私立中学校の先生方九十名の出席がありました。授業終了後の合評会にも、八十名の参加者を得、女子大の小田先生の司会で活発な質疑応答がなされました。これを機に、外との交流を図り、英語教育についての話し合いの場を持ちつづけられたら、と願っております。

本校で、中学出身者の基礎学力の問題にとり組み始めたのは六年前のことです。教研委員会によって客観的なデータが集められ、追跡調査がなされました。中学出身者の学力不振の原因はどこにあるか、その解明に乗り出したのです。入試を突破してきた一定のレベル以上の生徒たちです。公立中学に比べて週に一、二時間は多い英語の授業時間。本校は、いわば恵まれた条件にあります。ところが、現実には、推薦制度に甘え、生徒は安易で無気力な授業態度におちいりがちです。非は生徒にはかりあるのではなく、教える側にも反省すべき点があるのではないかと、英語科教員一同は機会あるごとに集まって討議を重ねました。

本校の六年間一貫教育、大学への推薦制度を考えると、この利点を生かした独自の

英語教育がなされてしかるべきです。最初にぶつかったのは指導法の問題でした。これではなくてはならぬという指導法などはありませんし、各先生の個性・持ち味は当然生かされるべきです。しかし、中・高六年間と大学二年間のあいだに、ある先生は訳読ばかり、次の先生は文法中心、あるいは発音中心と、再々変わる指導法のもてで迷惑するのは生徒でありましょう。私どもは少なくとも基本線は統一したいと考えました。試行錯誤ののち、言語活動の原点である音声に重きをおいた指導法をすすめることにしました。生徒が学校で英語に接するのは限られた時間です。その中でもあれもこれもと盛りだくさんにはやれません。一つのものに集中しよう。そして、まず耳からの学習を徹底したい。聞こう、聞いたものを言えるように、言えたものを読めるように、読めたものを書けるように——という方向を目指しました。

単なる機械的なおうむ返し口頭練習で、おわらずに、それから意味のあるドリルへ、さらに意志伝達ドリルへ進みたい。英語についての知識ではなく、あくまでも生き

た場面での英語を教えるべきであると考えました。これを実践する以上、わずかに、二年で終わってほしいという効果は望めません。六年間のプログラムが必要です。文部省の検定教科書は最大公約数的なものであり、本来ならば各校が実情にあったテキストを作るのが理想的でしょう。私どもの指導法にそった独自のテキスト編成への取り組みは、こうしてスタートしました。

自主教材による授業は、現在の中学三年生が入学すると同時に実験的に始められました。四ヶ月後、同志社女子大で開かれたLLA全国大会でその活動の一端を発表したのですが、当時はさほどの反響もありませんでした。教室でのドリルを終えるごとに生徒にまよめのプリントを渡すというところで一年が過ぎました。プリントとして残った教材に検討を加え、第一冊目が完成したのは五十一年三月のことです。これを土台に、Book I、IIにとりかかりました。テキスト編成にさきだち、中一〜高三で修得すべき文型・語彙の一覧表を作成、これをおおまかに六等分し、次に項目の配列を考えなくてはなりません。私どもとして

は、ドリルに幅を持たせ、いきいきとした形の英語を教えたいと願ひ、文部省の要項にとられない独自の編成方法をあえてとりました。単に文法的に正しいというだけではなく、実際にどういう場面で使われるかということをつたえず念頭におき、原稿の段階でサッサー氏（梅花短大）に目を通してもらひ、多くの示唆を得ました。一つの文型を定着させるには何種類ものドリルを経なければなりませんし、新しい文型はたえず既習の文型と組み合わせるべきです。また、テキストは生徒のためのものですから、家庭で学習するに際して、授業内容がそのまま掲載されているテキストが望ましく、Book I〜IIIが平均三〇〇頁と、ぶあつくなっているのは、このためです。

テキストができ上がったからこれだよいというものではありません。それを実際に使い、改訂し、どのように発展させて行くかが、今後の大きな課題となるでしょう。これまでの中学三年間で実践してきた指導法を高等学校でいかすため、Book IVの作成に目下とり組んでおります。

（香里中・高教諭・英語）

新島襄研究参考図書

My Younger Days 同志社校友会

新島襄の生涯

（J・D・デイヴィス著・北垣宗治訳）

同志社校友会

新島先生書簡集一続（森中章光編）

同志社校友会

新島襄書簡集（同志社編）

一岩波文庫 岩波書店

新島襄先生（徳富蘇峰著）同志社出版部

新島襄一人と思想（魚木忠一著）

同志社出版部

新島襄（岡本清一著）同志社出版部

新島先生と徳富蘇峰（森中章光著）

同志社

同志社九十年小史

（同志社社史史料編集所編）

同志社

雑誌「新島研究」同志社新島研究会

新島襄（和田洋一著）

日本基督教団出版局

※比較的参照しやすいものを掲載